

日本民間教育大賞授賞式 記念講演会

日本民間教育大賞選定会議 / 協力・(株)塾と教育社

# 5年後の塾はどうなっているか？ — AIの進化がもたらす「塾革命」



教育×AIに精通し、最前線を走る5名のパネリストが登場して「5年後の塾はどうなっているか？—AIの進化がもたらす『塾革命』」と題したパネルディスカッションが行われた。

AIを活用したプラットフォームやアプリ、教材の開発現場をはじめとして、企業へ提供するAI研修まで様々な視点から意見を交わし、公教育に先駆けて柔軟なAI導入が進む民間教育の展望を語り合った。

全国の学習塾がAIの導入について様々な検討段階にあるいま、個別最適化された学びや講師の役割の変化、塾経営に求められていることやどんな準備をすべきかなど、示唆に富んだ議論が繰り広げられた。

各塾の教育観を研ぎ澄まして  
最適化された新しい教育の形を  
トータルデザインする時代

高田 はじめに自己紹介をお願いします。

佐藤 私は新卒で学習塾業界に入り、テクノロジーの力で教育現場の課題を解決したいと一念発起してみんがくを創業しました。教育における生成AIの活用プラットフォームとして「スクールAI」を運営する中で、ご縁があつて昨年(株)サクシーグループにジョインしました。

また、各企業が単独で黎明期のAIを模索することに限界を感じ、企業の枠を越えて議論する場として(一社)教育AI活用協会を立ち上げました。東京学芸大学専門研究員として

の知見もあわせて、学習塾におけるAI活用についてお話ししたいと思いま

す。藤田 成基学園グループの法人研修部門を担う成基総研は、一般企業に向け

の約2000社とお付き合いしてきた中で、学習塾経営者が今後の方向性をどう捉えていらっしゃるかという目線で議論に参加したいと思っ

ています。高田 学習塾におけるAI活用の必要性に、いち早く着目された経緯をお聞かせ

ください。佐藤 学習塾の多種多様な形態が登場

て従業員の育成や生成AI活用のための研修を提供しています。その観点から、学習塾で働く方々にとってのAI活用や業務効率化についてお話しさせていただきます。

松本 (株)すららネットは小学1年生から高校3年生までの5教科、さらに高校の新課程「情報I」を搭載したAI教材「すらら」の開発および運用コンサルティングなどを行っています。また、留学・就労で来日する外国人や、日本で生活する外国人の児童・生徒向け「すららにほんこ」や探究学習教材「Strata Satelizer」[Strata My Story]などのラインナップを展開しています。本日は、開発と運用現場の視点でAIの進化について議論したいと考えています。

服部 2016年にベンチャー企業として創業し、学習塾向けシステムやアプリの開発を行い、昨年、駿台グループにジョインしました。個人塾から大手塾まで全国の様々な業態し、子どもたちも多様化する中で一人ひとりに寄り添い切ることが難しいと感じていた頃、生成AIが台頭してきました。私自身は文系ですが、AIによって教育をアップデートできる可能性を感じ、約3年前から教育×AIに全振りしています。「スクールAI」はテンプレートをもとに、塾の先生方がアプリやサービスをカスタマイズするプラットフォームを提供しています。「こういう教育を提供したい」と言語化すればオリジナルアプリの作成が可能です。本日のテーマ「5年後、塾はどうなるか」は、「どういう塾を作りたいか」と対になる問いだと認識

しています。そして、「スクールAI」が1つのサービスとして閉じている時代ではなく、Edtechベンダーや教材会社と学びの素材を連携しながら個別最適化された学びをいかに子どもたちに提供するかを考えていく時代です。教材を組み合わせて新しい教育の在り方をトータルデザインする。つまり、各塾がオリジナルの教育観を持って最適化された形を自由自在にデザインできる時代が到来しています。足りな

登壇者 (50音順)

- |   |         |
|---|---------|
| (株) みんなぐ 代表取締役<br>ファシリテーター<br>(公財) 日本数学検定協会 理事長 | 佐藤 雄太 氏 |
| (株) Lacicu 代表取締役                                | 高田 忍 氏  |
| (株) 成基総研<br>コンサルティング事業部部長                       | 服部 悠太 氏 |
| (株) すららネット 執行役員                                 | 藤田 一臣 氏 |
|   | 松本 梢 氏  |



(公財)日本数学検定協会 理事長 高田 忍氏

同じ技術を半年後・1年後には代替されてしまうリスクが高く、AIを主に技術力だけで勝負するシステム会社やコンテンツ会社が苦勞するところでは、大手塾はデータ・コンテンツ・権利の時代であり、AIを使ってどんなデータをどのように活用しているかが価値となります。例えば、大学受験の模試を定観測した上で合格結果のエビデンスをつなげて分析するためにAIを使う際、大きな母数のデータを持つていることに価値が出てくるわけです。

コンテンツや権利の面では、映像授業のスクリーンをAIに読み込ませればそれなりのものができてしまうため、参入障壁が低いAIの分野で勝負するならば、スピード感が重



(株)みんがく 代表取締役 佐藤 雄太氏

高田 塾で働く従業員が生成AIを活用することによって、どんな変化が生まれるのか、具体例をお話しただけですか。

藤田 2023年から成基学園の従業員に対して、各回10時間程度の生成AI活用研修を、年2回ずつ全6回にわたって実施してきました。

昨年、ようやくクリエイティブに業務改善のアイデアが従業員のなかから出てきました。例えば、面談記録の自動化による生産性の向上です。こ

い部分は生成AIで補っていくという発想で、AIの秘めた可能性を勝ち取っていただけたら嬉しく思います。

知識はAIの領域にまかせて人間力やメンタルが人間の領域に  
より明確に分かれていく

れまでは保護者面談終了後に自社システムに手入力していましたが、保護者の許可を得て音声でAIにアップロードするだけで、面談記録を蓄積しています。最終的には「どんな提案内容や質問項目によって保護者のニーズを引き出したか」「単価アップにつながったか」といった分析を行う予定です。

また、社員自ら請求書を自動生成するアプリを構築したいと発案するなどの変化も現れるようになりまし。AIの目覚ましい進化を享受し、使いこなすためには教育が不可欠です。弊社も地道に3年かかりましたが、ようやく花開いてきたところです。

松本 生成AIの世界では知識のインプットを人が教える必要がほぼなくなりつつあります。例えば、受験生向けAIチューターは、24時間365日どれだけ聞き返しても即時

要です。また、AIの課題は著作物の権利関係です。現状は大手塾を含めてあいまいですが、著作権や権利をしっかりと持っている企業が最終的には勝つと予測されます。

一方、個人塾に必要なことはシンプルに、「日常業務の棚卸し」です。日々時間を要する煩雑な業務にこそAIを使うことが推奨されます。プロンプトに先生の個性を当てはめる作業に対して、わざわざシステムを導入

今年共通テストでChatGPT5.2は9科目100点満点を取りました。3年前に登場した頃は正答率が60%でしたが、わずか3年で東大生をも凌駕するレベルにまで進化しています。5年後はどうなっているかを予想する起点になる指標だと思

「すららネット」を導入いただいているAI自立型個別指導塾では、先生1名に対して生徒12名を実現しています。これがデフォルトになって、知識の伝達はAIの先生が担うフェーズに来ています。

一方、人間の先生が担う部分は、生徒が自分で問いを立て、課題を見つけて解決する力などいわゆる非認知能力に重点が置かれます。知識はAIの領域、人間力やメンタルは人間の領域と明確に分かれていくと思

現場における人間の先生の役割は生徒のハートに火をつける情熱とAIのデータ活用のスキル

高田 先日、中学校の数学の先生から興味深い話をうかがいました。定期テストが70点ほどだった生徒が急に85点を取るようになり、周囲にも85点を取る生徒が出始めたそうです。彼らは科目ごとに分担し、教科書の該当ページに加えて先生の出題傾向を生成AIに読み込ませ、暗記したところ軒並み成績が上がったとのことでした。「数学だけはこの方法が使えないから、数学の先生は生き残れる」と生徒に言われたと苦笑していました。

これは、果たして新しい学力観なのでしょうか。先生の役割はどう変化していくのか、ご意見をうかがいたいと思います。

佐藤 変わらない部分と変わっている部分があると思います。先生が担う部分は何よりもデザインすることです。素晴らしいデジタル教材や紙教材を組み合わせて、各教材の特性を活かして自分たちが届けたい教育を実現するためにデザインする力は、目の前の子どもたちを最も理解し、地域の実情や定期テストの状況を把

握している人間の先生にしかできません。さらに、これまで教材とサービスが分離していた部分も、教材と教材の間や教材とサービスの間をAIが自由度を高くつないでくれるようになります。

この3年間、生成AIの活用事例を考察してきた中で、確信いたしました。それは、生徒と先生の信頼関係を紡ぐことはAIには絶対にできないということです。生徒に最も刺さる個別最適化されたメッセージをAIが投げかけるよりも、目の前にいる先生からかけられる「頑張っているね」というひと言の方が心に響くのです。

松本 AIは論理的にどこまでも教えてくれる一方で、AIに対してエナジーを感じる人はいないと思います。「やる気を起こす」とか「ハートに火をつける」ことは人間でなければできません。「この人に会うとパワーをもらえる」という部分は人間が担う領域です。

困難に直面しても諦めず、目標に向かって粘り強く努力を続ける「やり抜く力」、つまり「GRIIT」と言われる部分はデータでは測れない部分です。生成AIに囲まれて育ったAIネイティブの子どもたちがいかに人格形成されていくのかを考えた



(株)成基総研 コンサルティング事業部部長 藤田 一臣氏

もデータを元に学習設計をすることができず。データ連携は個人情報問題などをクリアした上で、おそらく5年後は利活用が一部進んでいくと予測されます。しかしながら、学校現場と民間教育では目的が異なります。公教育は先生の働き方改革が目的です。あくまでも学校現場では紙のアウトプットをデジタル化するに過ぎず、AIが理解度に応じて難易度の異なる問題を出题するといった方向性ではありません。一方、民間教育は1歩も2歩も進んでいて、誰一人取り残さずに個別最適を目指しています。2030年にはデータの連携がスタートし、データを活用できることが新たな講師のスキルとして求められると思います。



(株)すららネット 執行役員 松本 梢氏

き、間違いなく非認知の部分が今後のキーワードになります。信頼関係については、新・昭和型の価値が出てくると予想しています。昭和世代は社会や教育現場など環境の中から、GRIITにつながるヒントや生きる力を自然に享受することができました。いまは、人として関わる度合いが希薄になっているため、対



(株)Lacicu 代表取締役 服部 悠太氏

人耐性が低くなっています。点数で可視化できるものが学力ではなく、協働学習やプレゼンテーション、ディスカッションなどデータで測れない部分が新しい学力観だと言えます。服部 先ほど高田さんが紹介された、AIを駆使して定期テストの点数を上げた生徒たちは、かなり才能があると思います。真面目に取り組むだけの価値観から変換していくことが必要なのかもしれません。まさしく、佐藤さんのおっしゃるデザインのように、「こんな世界があってもいいんじゃないか」と想像し得る人間にこそ、価値が出るのかもしれないと感じました。

通り一遍の答えを出せる人よりも、創造力豊かに「こういうことがしたい」とか「日常業務の中で非効率な部分を改善したい」と気づいて、横着できるアイデアを出す能力に価値が生まれるのではないのでしょうか。そうした能力が高い人は、結局のところ共通テストにも対応できる人であり、個人的には課題解決力があればテストの点数も伸ばせると思っています。

子どもたちが増えていくからこそ、本来教育が持つ力を発揮して能力を引き出すことが求められると思います。また、経営の多角化を図る学習塾が多い中で、AIは必ずや武器になります。従業員の方々を守るという観点からもAIを使いこなせるように鍛えることが重要だと思います。高田 日本におけるAIの活用は米

### 2030年、データ連携スタート パーソナルデータストアの活用が 講師のスキルとして求められる

高田 学力観が目まぐるしく変化する中で、先生にとってAIを活かすための研修の必要性を改めてお聞かせください。

藤田 20〜30年前から学習塾は知識を与えるだけでなく、「何のために勉強し、何のために生きるのか」「志は何なのか」を大切にすることを担ってきました。もはや、知識を与えるだけの教育に意味はありません。

高田 しかしながら、目の前の業務に追われ、生徒と濃い関わりを持ちたくても時間を割くことができないのが先生方のお悩みです。我々は研修を通じて、いかに効率化して生徒や保護者の心に火をつけることに時間を使ってもらうかをお伝えしています。

高田 今年に入ってから、生成AIはまさに産業革命レベルで進化を遂げています。集客における保護者の動線も変化しています。これまでの集客はGoogleなどの検索エンジンの評価基準によるSEO対策でしたが、いまはAIの最適化が必要で、AIの提示する第一候補のリストに自塾が入っていない場合は、保護者から選ばれなくなってしまうため、常にAIが私たちの近くにあると意識しなければならぬと思います。自塾が、AIにどう判断され、どう推奨されるか、ぜひさっそく試してみてください。

### キーポイントとなる概念は 「認知オフローディング」と 「バイブコーディング」

高田 自塾に足りない部分を認識し、新たな連携を模索するアイデアなど5年後に向けてどんな準備をすべきでしょうか。

佐藤 一つは「認知オフローディング」をどのように捉えていくかが今後重要なポイントとなります。いわば、考えることをAIに丸投げすることで、考える力が弱まってしまつことを危惧するものです。

現在、私が関わるOECDのプロジェクトでも頻繁に議論されているのが、ChatGPTなどを使うと一時的に学力が急上昇しても、AIを使うことができな試験で点数が下がる現象です。考えることを放棄するために深く考える力が伸びていかなのです。しかし、答えを聞かれてもすぐに教えずヒントだけを出すような教育特化AIの活用では学力が伸びていくというデータもありません。

もう一つは「バイブコーディング」の考え方です。「こんなアプリやサー

ビスを作りたい」「サービス間の連携をしたい」と言葉にすると、AIがプログラムを書いてくれる時代において、どんな教育を子どもたちに届けたいかを言語化すれば、理想の学習環境を構築できる時代です。徹底的に提供したい教育のあり方を言語化できる塾こそが、最速でクオリティが高い理想を実現できます。届けたい学びとは何かを自分の言葉で熱く語れる塾が、世の中に価値を提示できると思います。

藤田 私は、学習塾の従業員の方々は今後大きな価値を持つと信じています。人に影響を与えることにこそ価値が生まれるからです。AIにできることはAIにまかせ、浮いた時間を子どもたちと本気で関わる経験を積み重ねて価値を生み出していく時代です。従業員の方々にAIを活用できる学びの機会を与えることで、地域からもご家庭からも愛され慕われる学習塾となつていただけると考えています。

高田 新たな塾革命のヒントが多数込められたパネルディスカッションとなりました。本日は貴重なお話しをありがとうございました。